

福島県では、よりよい農業を目指し、GAP (Good Agricultural Practices: 農業生産工程管理) の導入や認証取得の拡大を進める「ふくしま。GAPチャレンジ」に取り組んでいます。生産者の皆さんだけでなく、消費者の皆さんも「GAPチャレンジ」の応援をお願いします。

GAPって何?

皆さんは、GAPをご存じですか？

GAPは、「よい農業のやり方」を示したものです。「よい農業のやり方」とは、環境への負荷を減らし、農業を行う人の安全や人権を守り、安全性が確保された農作物の生産をすることです。

GAPに取り組む生産者は、「食品安全」、「環境保全」、「労働安全」、「人権保護」、「農場経営管理」の5つの分野を実践しています。

①食品安全

- 農業はルールを守って使用する。
- 異物混入を防止する。



②環境保全

- 肥料は適切な時期に適量を使用する。
- 廃棄物はしっかり分類し、適正に処理する。



③労働安全

- 農作業の事故を防止する。



④人権保護

- 無理な労働をさせない。
- 更衣室を男女別にする。



⑤農場経営管理

- 農場のルールづくり。
- 生産履歴の記録・保存。



この5つの分野の実践は、SDGsの達成にも貢献する内容で、GAPは農業のSDGsを支えています。その持続可能性や安全性が認められ、オリンピック・パラリンピックや国際博覧会(万博)でも、GAP認証農産物を使うことが求められています。

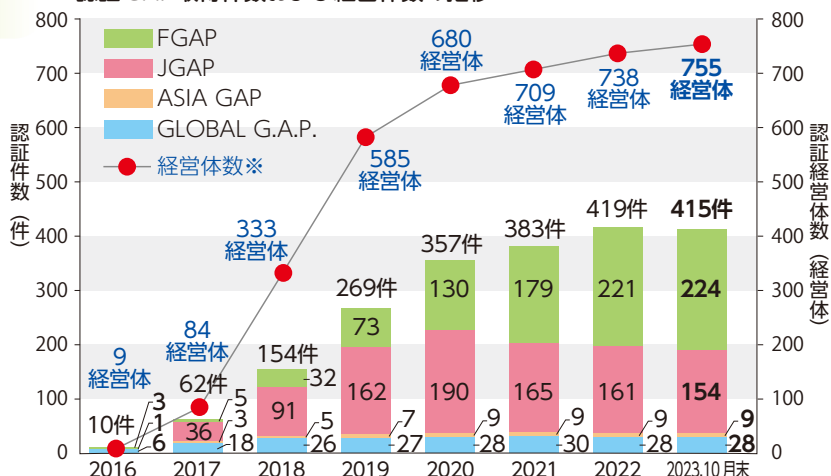
生産者が適切にGAPを実践しているかどうかを第三者が確認し、認証する制度があります。日本の認証GAPは、「GLOBAL G.A.P.」、「ASIA GAP」、「JGAP」の3つです。これに加えて、福島県では県オリジナルの「ふくしま県GAP (FGAP)」があります。FGAPは、5つの分野に加え、放射性物質対策が含まれているのが特徴です。

県内の認証GAPの取得状況

福島県のGAPの取り組みは、効率的な農場管理を行うとともに、県産農産物の安全性の確保による産地の信頼の向上を目的として始められました。2017年には、JAグループ福島とともに「GAPチャレンジ宣言」を発表し、第三者認証GAPなどの導入・拡大に取り組み、認証GAP取得件数が増加しています。

経営体数が飛躍的に増加しているのは、GAPに取り組む産地として何人かのグループ(団体)で認証GAPを取得するケースが増えているためです。

認証GAP取得件数および経営体数の推移



※経営体数:1つの農場が複数の品目で認証を取得していた場合も、1経営体としてカウント。
※件数:1つの農場で複数の種類、品目で認証を取得していた場合は、区分ごとにカウント。

福島県の取り組み

株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの連携

株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、オリジナルフレッシュフードに使用する野菜について、2050年までにGAP認証野菜を含む、「持続可能な調達」をした野菜の使用を100%にするという目標を掲げています。

全国に先駆けて、福島県内で販売するサンドイッチに使用する生鮮野菜は全て認証GAPを取得したものにしています。その中でも、県内産のGAP認証野菜を使用しているサンドイッチには、福島県のGAP統一マークが貼られています。



GAP統一マークが貼られたサンドイッチ

株式会社良品計画との連携

株式会社良品計画は、無印良品ネットストア内の地域産品を産地直送する「諸国良品」を通じ、地域と生産者に目を向け、販路拡大により生産者を支援する取り組みを進めています。2023年の夏から、「諸国良品」において、県内のGAP認証農場の桃やなし、りんごを販売しています。また、ウェブサイトなどでGAPの説明や生産者の声を掲載して、GAPへの理解を促進しています。

今後も販売する農産物を増やし、全国に安全・安心な県産農産物を届けていく予定です。



無印良品店舗での販売

GAP統一マーク

福島県では、「ふくしま。GAPチャレンジ」に賛同する生産者や小売業者などの目印として、GAP統一マークを作りました。お買い物の際に、探してみてください。



みんなでGAPチャレンジ!

生産者が取り組む「GAPチャレンジ」を応援するために、皆さんができる「GAPチャレンジ」があります。ぜひ、皆さんもGAPを「知って」、「探して」、「買って」、「伝えて」応援しましょう!

知る

- GAPを知る
- 生産者を知る

GAP認証者、農産物を探す



ポータルサイト
ふくしま。GAPチャレンジ



探す

- GAP認証農産物を探す



買う・味わう

- 見つけたGAP認証農産物を買って、家庭で味わう



伝える

- 食べた感想などをSNS等で伝える

GOOD!



おいしい果物を届けたい



株式会社 菱沼農園
代表取締役
ひしぬま けんいち
菱沼 健一さん

桃でFGAPを取得された株式会社 菱沼農園の菱沼さんにお話を伺いました。

桃でFGAPを取得されていますが、桃は何品種作っていますか？

桃は、23種類ぐらいの品種を作っています。7月の「はつひめ」から始まって、10月上旬頃までさまざまな品種の桃を育てています。生産した桃を加工し、ジュースやシロップなどの6次化商品も作っています。

認証GAPを取得されたきっかけを教えてください。

10年前に法人を立ち上げてから、日報作成やソフトを利用したデータの収集、農薬管理など、法人としてGAPの取り組みと同じようなことをやってきました。そのため、福島県独自のGAP (FGAP) ができたことをきっかけに桃で取得しました。



発送作業



大きさごとに仕分け

今の時期(12月)はりんごの収穫・発送を行っていますが、発送の仕方など、法人としていかに効率よく、利益を出せるかということに従業員みんなで考えています。

菱沼農園さんの果物や6次化商品はどちらで購入できますか？

菱沼農園のホームページから購入できます。道の駅ふくしまや福島市の農産物直売所「こころ」、福島県観光物産館、日本橋ふくしま館 MIDETTE(ミデッテ)でも取り扱っています。



消費者の皆さんに一言お願いします。

桃やりんごが1年かけてどのように生産されているのかを理解してもらいたいです。生産工程を明確化しているGAPを理解していただくことで、果物が生産される仕組みを理解してもらうことができます。また、おいしい食べ方などを知ってもらえると、もっと果物を楽しんでいただけたらと思います。

皆さんの口に入るまでのことを考えて、一番良い状態で提供できればと考えていますが、天候に左右される面もあり、味や見た目に個体差があるということも理解していただければありがたいです。

県では、安全・安心で品質が確かな県産農産物を消費者の皆さんにお届けするため、農業の生産工程を管理するGAPの取組を推進しており、信頼され、選ばれる産地づくりを進めています。

また、県内量販店等におけるGAPフェアの開催やGAP認証農産物を活用したメニューを各種イベントで提供することなどを通じて、GAPに対する理解促進にも取り組んでいます。

引き続き、認証取得日本一を目指し、認証GAPの取得拡大を進め、安全・安心で消費者の皆さんに信頼される農産物の生産に取り組んでいきます。

知事メッセージ

— Message —

安全・安心な農産物を届けるために

福島県知事 内堀 雅雄

